

注目を集める地方発のベンチャー(第8回)

本物のデロリアンがリサイクル燃料できちんと走る

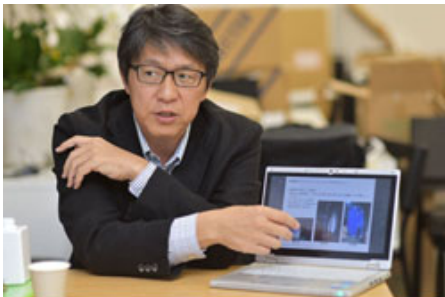
2016.11.01

日本環境設計 岩元美智彦社長

ベンチャー企業、日本環境設計を経営する岩元美智彦社長。連載4回目はリサイクルビジネスに大手企業を巻き込むポイントと、海外展開について語ってもらった(聞き手はトーマツ ベンチャーサポート事業統括本部長、斎藤祐馬氏)。

斎藤

:日本環境設計の活動に賛同する大手企業が増えています。一般的には、ベンチャー企業が大手にアプローチすると、時間や労力がかかることが多いようです。岩元さんたちは、どの部署から当たるのですか？



幼稚園、学校、商店街など多様な相手との提携を進める岩元美智彦社長
(写真：菊池一郎、以下同)

岩元

:最初はCSR(企業の社会的責任)、環境部門。それからエンターテインメントですからイベントや企画部門、といった順番で持っていくんですね。CSRってあまり予算がありませんから、まずCSRの人たちが本社で稟議(りんぎ)が通しやすいような係数を出していくんです。まずそれが仕事の第一歩。価値がありますよ、ということ理解してもらうことからですね。

斎藤:なるほど。

岩元:例えばこんなこともあります。

幼稚園の園長さんの悩みに、卒園と同時に使えなくなるおもちゃがたくさん出てくるということがありました。それをリサイクルしましょうということで、卒園と同時におもちゃも卒業させようというキャンペーンを張りました。おもちゃをリサイクルして新しいおもちゃにする。それによって戦争をなくすこともできる、といったことをずっと啓発していて、この1パッケージを5万円ぐらいで買ってもらっています。

これを学校や商店街にも使ってもらっているのですが、2013年には3校だったのが、14年で300校以上に増えて、これがまたどんどん増えている。だからリサイクルってそれだけニーズがあるんです。自然と広がることによって、マネタイズできるような仕組みになっています。

ユニバーサルでデロリアンを買ってきた… 続きを読む